



野口店と歴史を見守るお地蔵様

店主の話 vol.2

皆様ようこそ来店下さいました私は店主の山本でございます。

本日も御食事の間に箸休めとなる私の体験したお話をいたします。

二回目の今回は昭和 61 年 7 月 18 日に開店した加古川野口店のお話です。

当時てんじくは加古川駅前サンライズビル地下に店がありました郊外に出店したいと思っていた時、不動産屋さんから現在の店のところに 170 坪平余りの土地を紹介されました。

開店する前年のことです早速訪れると大きな建物が建っており、その北側に小さな祠があり、中にこれも小さな地蔵様が鎮座されていました。

前面は建物の陰になり、ごみや落ち葉でいっぱいでした、その時この土地で開店できた時にはお地蔵様の前をいつも綺麗にしますと手を合わせたことを覚えています。

土地の買収話はいつも難しいものですが、不思議な話は進み契約を終え建築も進みオープン日を迎えた前日、お地蔵さんの前を約束した通りに掃除していると見慣れない 15 センチほどの石があり、その石に掃除具が当たった瞬間パカッと石が割れました。

その割れた石の中からお地蔵様が光り輝いて出てきたのを見てとても驚きました。

1 個の石が割れ 2 体になったように見えました。



お地蔵様



当時は不思議な輝きが・・・



五輪さん（供養塔）



白蛇穴？
白蛇は幸運の使いと言われます。



不思議に思った私はその石を実家に持って帰り仏壇に供えました。

人に話すと笑われると思いそのことは家族にも話しませんでした。

しかし、それから一週間程して石が「帰りたい・戻りたい」と言っているような気が寝ても覚めてもするものですから元の場所に戻しました。

西暦でいうと1986年の事ですから何十年も前の話です。

1年程人型は銀色に輝きその周りは金色で何とも厳かでした。

そして今も石は残っています。輝きはあせていきましたが小さな祠にお地蔵さまと収まっています。

近所の方々が毎年地蔵祭りをされているので話を聞くと、私達もよくわからないが昭和の初めには辺りは田園で畦道には祠はなかったが小さな石地蔵があったとの事でした。

後ろの槍の木はある人はその当時からあったという人や、いや自分の小さな頃は小木だったと定かではありませんでした。

ただその木の処で白い蛇をよく見かけるようになり樹の根元に大きな穴を見付ける様になってからは穴の中に卵を供える人もあり、いつの頃からか白蛇穴と口伝に今に至るといことです。

私も穴の処で大きな蛇の抜け殻を見たことがあります。

もともと数メートル北の道は昔の山陽道で京から九州への主要道であり近くの教信寺を始め野口神社等、古代から歴史を重ねている土地であり、少し土地を掘れば必ず五輪さんという石で作られた供養塔が出てきます。

鎌倉時代から室町時代にかけて兵庫県佐用の赤松氏や足利尊氏が京から九州にかけ動いていた時代、この道は古文書によく出てきます。

戦国時代には、三木城主である毛利方の別所氏と羽柴秀吉の戦いで寺が三木城方に味方したため野口は激戦の地ともなりました。

その歴史をじっと眺めいらっしゃるお地蔵様です。



お地蔵さまと野口店